心をつなぐ やさしい手紙

清川　妙

清川（きよかわ）　妙（たえ）

山口県生まれ。奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大学）文科卒業。小説家。映画評論家。エッセイスト。各地で古典文学、文章、手紙教室など、講演や講義を行う。外国文学にも精通し、取材旅行以外に、イギリスやフランスへのひとり旅を四回敢行。若々しさとシックがみごとに調和した独特の表現力、感性は、あらゆる世代の心に響いて人気を博している。著書に『心を伝える短い手紙』（主婦の友社刊）のほか、『清川妙の萬葉集』『喜び上手の心ノート』『美しく生きる女の心ノート』『しあわせの栞』『1000年、恋は変わらない』など多数ある。

住所…千葉県市川市国府台３－１－９

心をつなぐ

やさしい手紙

平成４年３月３日　第１刷発行

著　者　清川　妙　〈検印省略〉

発行者　石川晴彦

発行所　株式会社主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台２－９

郵便番号101 振替 東京２－87527 番

電話（編集）03－3294－1121

電話（営業）03－3294－1134

印刷所　共同印刷株式会社

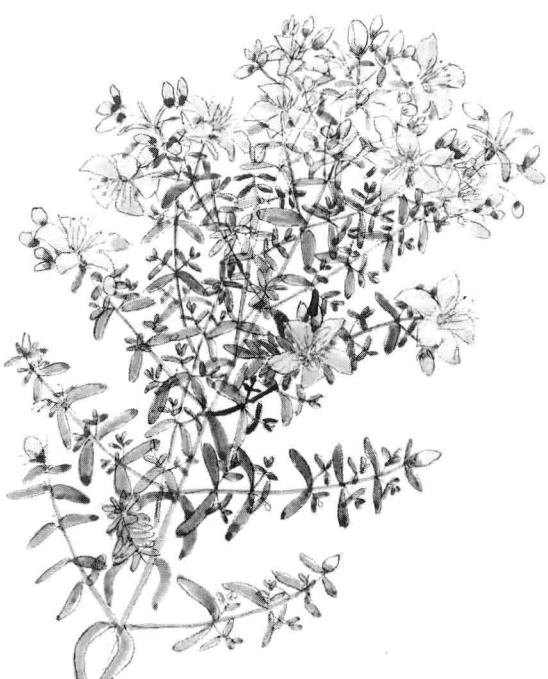
もし落丁、乱丁その他不良な品がありましたら、おとりかえします。

©Tae Kiyokawa　1992　Printed in Japan

ISBN4-07-938278-2

心をつなぐ
さしい手紙

川妙



主婦の友社

はじめに

〝美容院から帰ってまいりましたら、Oさんのおみやげが私を待っていました。ありがとうございました。一足ちがいでお目にかかれず、ほんとうに失礼いたしました。お許しくださいませ。
タケノコごはんは久しぶりの母の味。うれしくなつかしくお昼も夜も賞味いたしました。
諏訪湖の小魚の甘露煮もなんとおいしいこと！
ワサビの花芽は、食べてしまうのがなんだか惜しく、かわいそうな気もして、花瓶にさしてながめながら、これを認(したた)めています。
どうぞお元気で、いつまでも、いつまでも万葉の会にいらしてくださいませ。〟
この〝はじめに〟を書こうとして、タイトル通りの〝心をつなぐやさしい手紙〟のサンプルになる手紙はないかしらと探しているうちに、ふと出てきたのが、この手紙である。
私は気に入った手紙を、ときにコピーをとっておくことがある。それは、心がゆったりしているとき、ていねいなやさしい気持ちで相手に呼びかけているものが多い。じつは、この手紙も私自身の手紙なのである。
私はこれを一九八三年の三月三十一日に出している。いまから九年前になる。そして、いま、私に母の味をくださったOさんはもうこの世にはいらっしゃらない。
私はこの古い手紙を読み返して、Oさんからいただいた温情と、私のお礼の気持ちが、この中

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

にきれいに響き合っているのを感じる。

Oさんは信州の旅のおみやげをわが家に届けられ、急用があったのか、すぐに帰られたのであろう。

そのときの事情を私は忘れている。だが、この手紙は、その頃もう八十歳を越えていらしたOさんがタケノコごはんを炊き、ほかのおいしいものも添えて、中野から市川まで一時間以上もかけて持ってきてくださったやさしさをそのまま残す。おみやげのその味、その彩りもいまに蘇らせる。

私もていねいな心でお礼状を出してよかった、といまさらのように思う。

私はこの本の中で手紙について多くのことをお話しし、ことばづかい、贈り物、パーティーなどについても、私自身の体験を通して、いろいろと提案してみた。

それらのことはけっして別々のことではない。手紙やことばは、贈り物の一種であるし、パーティーもまた人と人との心の触れ合いがポイント。それらはすべて、〝心をつなぐやさしさ〟をテーマとしていて、たがいに重なり合っている。

この本の中には、私の古典教室やエッセイ教室の人たち、旅でめぐりあった人たちが愉しく登場する。古典の文章にもたくさん触れている。古典の人々も、また、私の大好きな友だちなのである。

暮らしのエッセイ集を読むような、やわらかい心で読んでいただければ、どんなにうれしいことだろうか。

清川　妙

目次——心をつなぐやさしい手紙

はじめに／3

第一章　手紙で深まるおつきあい
古典にはお手本がいっぱい

……10

はがき一枚にも改まった心はこめられる／12
手紙保存箱は喜びの歴史の宝庫／14
残しておく手紙の条件／15
兼好法師はワープロ手紙反対派？／15
私の手紙作法①　一字一字ていねいに書く／16
私の手紙作法②　ゆっくりした気持ちで／17

「過ぎにしかたの恋しさ」古い手紙にこもる想い

……10

『徒然草』の手紙への想い／10
心のやさしさがこぼれる「上等」の手紙／11

私の手紙作法③　まっすぐ書くすすめ／17
私の手紙作法④　一枚の紙でも充分／18
クラシックな手紙とモダンな手紙／18
ファクシミリレターの愉しいやりとり／20
『徒然草』も語る子供の手紙／21
兼好の心をくむ男性のいい手紙／22

「きぬぎぬの文」の心はお礼の心すぐに出すのが古来のマナー……23

平安時代は紙、和歌、文字で評価／23
露の干ぬ間に書く「きぬぎぬの文」／24
きぬぎぬの文は現代版お礼状／25
お礼状は早く短く気持ちを素直に伝える／26

清少納言の「花の枝に手紙」現代版は絵はがきやカードを……26

カードや絵はがきを買いためて選んで使う／26
すてきなお礼状は相手を幸福にさせる／26
たった一枚のエプロンのお礼状でも／28
手紙も人なり／28
心の栄養をつけて手紙を書く／29
お礼状はおつきあいを深める／29

季節だよりはおつきあいのすてきな薬味……30

手紙にさりげなく季節を添える法／30
季節のことば遊びを楽しむ古典の女性たち／32
返事を出さなくても／32
年賀状も季節だより／34
愛で上手になる努力／35

「目覚むる心」の反映旅だよりは詩人になって書く……35

カルチャーショックを受ける旅の感動／35
旅だよりの序章から終章まで／36
男性からの軽妙な旅だより／39
お福分けしたくて書く私の旅だより／40
ダイアリーがわりに自宅に出す旅だより／41

手紙美人たちのさまざまないいたより……43

別れの手紙の作法／43
古典に見る別れの手紙の美学／45
いい別れはいい再会をもたらす／45

〝のはら村で遊んでね〟のお見舞い状／46
お悔やみ状こそ心を傾けて／48

「古典のゆかしい手紙」の子孫たち ……49

紙と色の優雅な演出／49
通い婚時代の季節だよりは男のマナー／50
コーディネートされた手紙のおしゃれ／51

第二章　贈り物にも手紙を添えて ……54

万葉の時代からの伝統マナー

贈る心を短く書いて「物＋メッセージ」こそマナー ……54

八十三歳の奥さまからのすてきな贈り物／54
『万葉集』の可憐な贈り物テクニック／56
思いをこめたものが贈り物／56
こめた思いをメッセージとする／57
贈り物には必ずことばを添えて／57
カードを活躍させてはいかが？／57

中宮定子は贈り物名人 粋できれいな贈り方 ……58

相手の好みを熟知して、さりげなく贈る／58
「ふと、自然に」贈り、もらう／58
添え手紙がものをいう／59
「いとしい品々」を贈り合う／60
カナダ箱の贈り物／63
お礼状コピーのおすすめ／63

光源氏の恋人たちへの贈り物……65
相手のキャラクターに合わせて／65
珠玉のような贈り物／65
思いがけないおしゃれな贈り物／66
お金を贈るときの心づかい／68
ことばも最高の贈り物になる／68

第三章　清少納言は会話の天才　気のきいた会話のあるおつきあい……70

古典の森の草かげの珠実のようなことば……70
『枕草子』に見るセンスのいいことば／70
自分のことばかりしゃべるのは「あいなし」／72
「よろしいかしら？」の精神／72
「お返事は要りません」の添え書きのうれしさ／74
愚痴、羨望、うわさ話「いとにくし」／74
「さいまくること」も禁物／75
「いい聞き手」になる／75
清少納言も嘆いた「誤った語法」／76
まず柔軟な発想から／77

清少納言の会話についての意見は現代の若者へのアドヴァイス……78
清少納言も「いい答えのできる若者は好き」／78
世界共通「サンキュー」と「ソーリー」の言える人に／78
「パルドン・マダム」／79
「品のない」ことばは清少納言も幻滅／80
「色の白いは七難隠す」はほめことば？／81
「つまらないものですが」はもうやめよう／82
「お裾分け」より「お福分け」／83

『枕草子』や『徒然草』が認める「いい会話」の条件……84
純真で心のこもったことばを／84

喜びゲームのセンスでことば選びを／84
「いい男」の返事の仕方／84
感じのよい声も訓練から／86
平安時代の神主や僧侶は「声」のよさで人気スターに／87
いい声を出そうという意志を持って／87

第四章　広義「パーティー」論

愉しみながら自分磨きをするための

清少納言の新人時代の経験　やさしい心が語るやさしいことば……88
「宮にはじめてまゐりたるころ」／88
暖かさが心に残る一言／90

パーティーは友だちづくりの場……92
ふだんとちがう人々とつきあえる場／92
心の間隔をあけたつきあい方も必要／93
リラックスがポイント／94
ごちそうより会話を大切にするアメリカ式パーティー／94

愉しみ上手の二人のパーティー……92
教え合うパーティーもおもしろい／97
ビデオ鑑賞パーティー／97
世話人自身が愉しめるパーティーは成功／98
万葉のパーティー名人、大伴旅人／99
万葉の歌のくじびき遊び／100

おわりに／102

カバー装画／堀　文子
レイアウト／松村親衛（パイン）
スタイリング／竹山玲子（クリプトン）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第一章 古典にはお手本がいっぱい

手紙で深まるおつきあい

「過ぎにしかたの恋しさ」古い手紙にこもる想い

●『徒然草』の手紙への想い

『徒然草』の、

〝静かに思へば、よろづに過ぎにしかたの恋しさのみぞせむかたなき。〟

ということばで始まる段が大好きである。

静かに考えてみると、何事につけても、過ぎ去っていった昔の恋しさばかりは、どう抑えようとしてもつのるばかり……。人が寝しずまったあと、秋の夜のたいくつ紛らしに、部屋の道具を片づけ、これは残しておくまいと思うほごなどを破り捨てているうちに、ふと見つけた亡き人の歌や絵……。

兼好はそれらのものに限りないなつかしさを感じ、しばし、思い出の網の中にからめとられ、沈んでいく。歌や絵の中には、手紙のはしに書かれたものもまじっていたことだろう。

手紙そのものの魅力についても、もちろん書かれている。

〝この頃ある人の文だに、久しくなりて、いかなる折、いつの年なりけむと思ふは、あはれなるぞかし。〟――いま生きている人の手紙でも、もらったときからずいぶん年月が

私の手紙保存箱

たって、この手紙はどういう折に、いつの年にもらったのだろう、と思うような古い手紙は、身にしみるものがある。そうも書いている。いま生きている人の古い手紙さえそうなのだから、亡き人の手紙だったら、なおさら感慨は深いのである。

●心のやさしさがこぼれる「上等」の手紙

ある夜、私はこの『徒然草』の文章とまったくおなじような想いを持った。

原稿を書き終えたあと、まだ神経がたっていて、眠れそうにないその夜、私は〝要保存〟と書いてある手紙箱の一つのふたをあけてみた。〝要保存の箱〟というのは、私が受けとった手紙の中の、心惹かれて捨てかねるものを取っておく箱である。

箱はいつのまにかいくつもたまっていて、書棚のすみにたむろしているのだが、いざ整理しようとあけてみても、やはり捨てられなくてそのままになってしまっている。

その夜、私が気の向くままに拾いあげた手紙の一つは、結婚以前から私の古典教室に、もう十七年間もの間ずっと来ていらっしゃるかたが、新婚ホヤホヤのころに札幌から出されたものであった（札幌にいらした一年の間だけ、教室をお休みしていらしたのだった）。

マンションで、奥さんたちとジンギスカンパーティーを

したお話とか、夫に「東京から離れてさびしい、さびしい」と言うと「大丈夫か」とか言って心配してやさしくしてくれるので、後ろを向いて舌をペロッと出したとか、ほんとうは生活の大変化の中で、しいて自分を励ましながら生きていらっしゃるにちがいないのだが、意識して愉しい手紙を書こうとしてるのがよく分かる。

おそらく書かれた本人は忘れていらっしゃると思う。でも、手紙とはおもしろいもので、そのときのいきいきした感情を、あとあとまで文字としてちゃんと残すのである。

そして、私は、この手紙の結びに、すてきなことばを見つけ出し、胸が熱くなった。

〝川の流れのように止むことなく絶えずお忙しい先生、おからだをご大切に。〟

私も、また、Mさんからそういうことばをもらったことを、この古い手紙をもう一度手にするまで、忘れていた。

〝川の流れのように〟とは、なんといいことばなのだろう。それは、やはり私の傍にいて、私の暮らしをこまごま知っている上に、愛情を持ってくれている人のことばなのだ。このことば一つの中にMさんのやさしさがこもっている。

手紙は、その中のどこかに、その人のやさしさが、ふっとこぼれているものが、上等のものなのだ。

そして、私はいつも思う。手紙というのは、人間の表情とよく似ている、と。

目鼻立ちの寸法がよくてきちっとしているけれど、あまり味のない表情をしている人がいる。目鼻立ちはそんなによくなくても、なぜかその人の傍にいつもいたいような、やわらかくあたたかい感じを持っている人もいる。

手紙にもおなじことが言える。

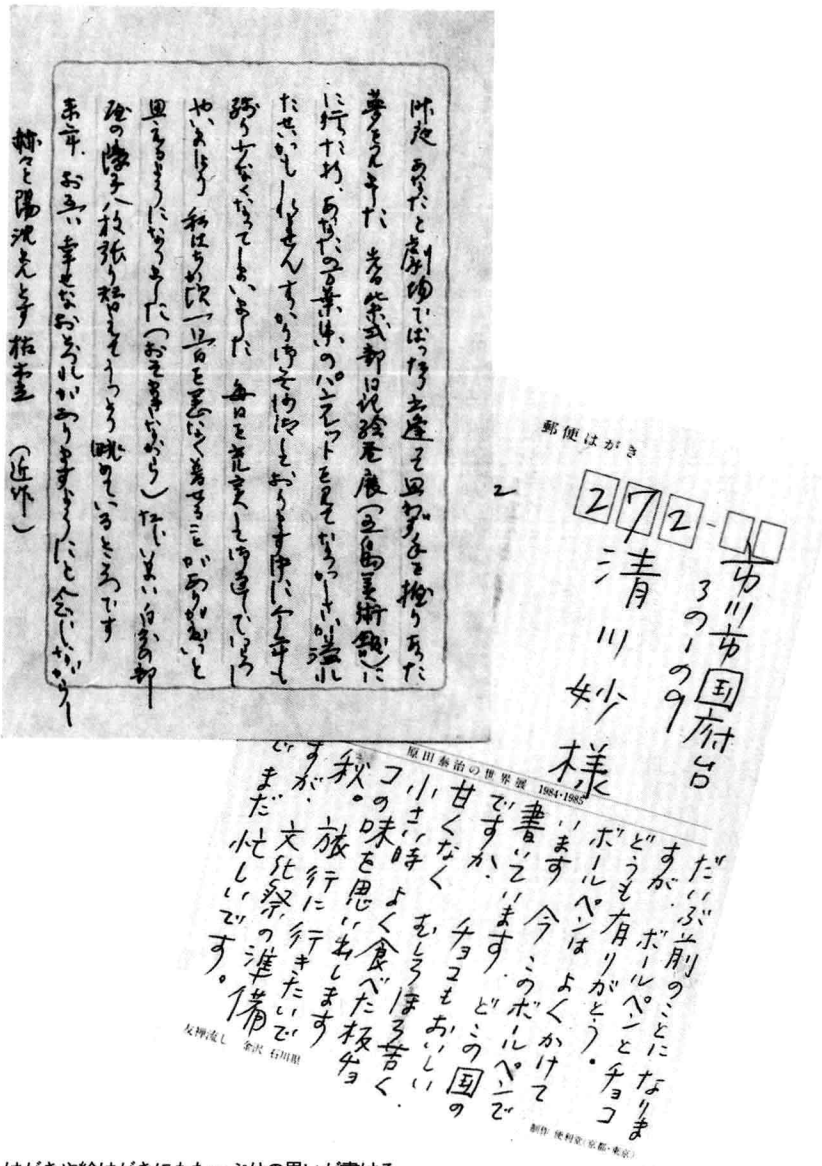
手紙はまた、話し方にも似ていると思う。肩をはらず、自然体でゆったりと話しているのだが、どこかユーモラスで楽しいという人もいる。ことばは大変ていねいだけど、話を聴いていて、まったくおもしろくない話し方もある。手紙にもおなじようなことが言える。

上等の手紙というのは表情のやわらかい手紙。ひとふしあたたかい心が流れている手紙。どこかにユーモアが漂っていればいっそう魅力的だと思う。

●はがき一枚にも改まった心はこめられる

でも、ときにはとても改まった手紙もいいなあと思う。

Mさんの手紙を見つけ出した夜、私はおなじ箱から、いまは亡き、私の同級生の手紙を見つけ出した。それは、ある日、私の文章がラジオ放送されるのを前もってお知らせしていたのだが、この同級生のOさんはそれをちゃんと聞いてくださって、放送直後、次のような手紙をくださったのだった。



はがきや絵はがきにもたっぷりの思いが書ける

〝(前略)三月七日は清川様の放送を楽しみにいたしておりました。夜、雪のため帰りがおくれ、途中から聞かせていただきました。お知らせいただいて、ほんとうにうれしゅうございました。心より御礼申しあげます。

一つ一つのお言葉が限りなく広がって、御様子や心の中が自然に伝わる不思議さに心打たれました。八丈島の美しい花々や、風に揺れるとばかり思っていたヒースや――実際にごらんになられた御様子があたたかく目に浮かんでまいります。

作家清川妙様としてこの上ともご活躍をと、心からお祈り申しあげます。ほんとうにおめでとうございました。(後略)〟

これははがきに書かれたものである。はがき一枚にでも、これだけ思いのこもったていねいな手紙が書けるのである。改まった手紙は封書にしなければ、という思いこみを捨てさせる手紙である。

はがきの隅には、淡紅、淡紫のトルコききょうの花が小さく印刷されている。この花は、挙措もことばも限りなくやさしくていねいであった亡き人をしのばせる。

●手紙保存箱は喜びの歴史の宝庫

私は自分が書いた手紙もコピーして保存することがあるが、それは商売気だけではけっしてない。取っておく自分の手紙のコピーは、お礼状が多いのだが、時折、保存用の箱をあけて、それらの手紙を読み返せば、すてきなものをくださったかたの心、いただいた私の喜びを、また繰り返して味わうことができる。

たとえば、次の手紙は、高知から鰹のたたきをクール宅急便でいただいたときのお礼状。読み返せば、刻み葱、しょうが、にんにく、紫蘇、土佐酢まで添えて、送られてきた心こもる贈り物の味も様子も思い出される。

〝鰹のたたき、十月二十日午後六時半無事到着いたしました。たのしみに待っておりましたのですぐに賞味いたしました。なんとおいしいのでしょう！　箱には「特選とろかつお」と書いてございましたが、最高のおいしいところを選んで送ってくださったのですね。まさに舌にとろけるような美味でした。居ながらにして南国土佐の海の幸を賞味できるしあわせをお恵みくださいまして、ほんとうにありがとうございます。

昨年もこのしあわせをいただき、ことしもまたいただき、なんとありがたいことでしょう。

ご主人様によろしくよろしくおつたえくださいませ。

早く御礼申しあげたく速達にいたしました。〟

鳩居堂の罫入りのはがきに、これだけのことが書けるのである。

●残しておく手紙の条件

ファクシミリを使ってコピーもできるので、私は、自分で気に入った手紙を書いたときなど、コピーしておく。手紙文の文例を書いて、というような仕事がよく来る。そのとき、頭をひねるよりも、実際に自分が書いたものが手許にあったほうがよけい実感がこもるからである。

この間、あるかたが、〝N紅茶のなかの、安いんだけど、番茶みたいでおいしいの〟と言ってくださったものへのお礼状をコピーしておいた。簡単な礼状である。

私はこのごろ、じつに簡単に書くようになった。大変忙しいからである。簡単だけど、心をこめる。その代わり、いいはがきを使う。

これも鳩居堂で買った季節の花の絵模様のはがきに書いた。

〝N紅茶エステート、ほんとうに素直な味で、気どったところがなく、私と合い性がよく、長くおつきあいできそうです。よいお友だちのご紹介ありがとうございました。〟

お友だちというのはN紅茶のこと。N紅茶が喜びそうな手紙である。

簡単でも、ちょっと擬人法で気どって——。おいしかったよ——という手紙。

これは、ある講座に出たいけれども、日にちのやりくりがつかなくて、ごめんなさいという、私の本の読者のかたからのはがき。

〝暑中お見舞い申し上げます。お元気でいらっしゃいますか。小田急の講座に私が出席させていただければお目にかかれますのに、なかなか出られず、残念でなりません。せめてはがきの中の涼しい風が吹き抜ける木陰で、冷たいジュースをごいっしょに——〟

二つ、ジュースのグラスがあって、いすが向かい合って、おしゃれな手紙なのである。

●兼好法師はワープロ手紙反対派？

12～14ページのOさんのはがきに戻ろう。文字にもこの人のやさしさがあらわれている。けっしていい加減に書きなぐるということのない、一つ一ついとしみをこめたような字だ。

『徒然草』の中で、兼好法師がこんなことを言っている。

〝手のわろき人の、はばからず文書き散らすは、よし。見ぐるしとて、人に書かするは、うるさし。〟

手のわろき人、とは、手に障害がある人という意味ではなく、字が下手な人、という意味である。字が下手な人がなんの遠慮もなしに、あちこちに手紙を書き散らすのは、むしろさわやかでいい。下手な字が人の目に触れるのは恥ずかしい、見苦しいといって、人に代筆させるのは、その

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com